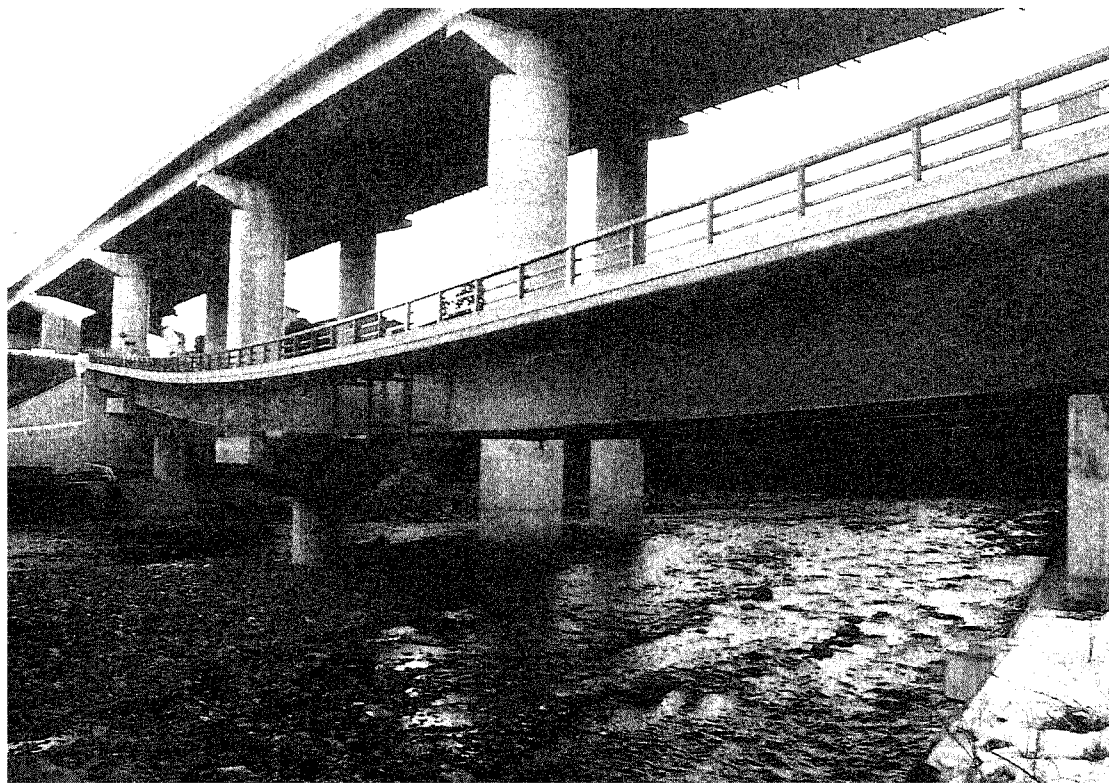


# 住みよいまちを目指して

## 城山大橋が完成



### 橋が広げる生活空間

都留市は、水と緑に囲まれた自然豊かなまちです。その反面、河川が多いため、各々の地域が分断されていて、地域間の交通・連絡網が十分とは言えません。また、市内を通過する車や、市民が富士吉田市・大月市に行く場合は国道139号線を利用するほかありません。従って、朝夕の国道の混雑は相当なもので、市民生活にも支障をきたしています。国道バイ



パスの建設が進められており、一部供用が行われていますが、市内の交通渋滞を解消するまでには至っていません。

そこで市では、交通渋滞の緩和や地域間の利便性を高めるため、中央自動車道側道を生活関連道路として位置づけ、整備を進めてきました。

その第一段階として今回、完成した城山大橋は、つる五丁目と川棚地区を連絡するもので、昭和六十年に事業に着手しました。総事業費は四億七千九百七十四万四千円で、道路を含めた総延長は四〇〇メートル、橋梁部分は九四メートルとなっ



上谷二丁目の小沢直作さん、きしさんから3代夫婦を先頭に渡り初めが行われ、橋の完成を祝い、安全を願いました。

ています。

この橋の完成により、すぐに市内の交通渋滞が解消されることにはなりません。今年度着工される川棚と十日市場を結ぶ柄杓流橋が完成し、古川渡・十日市場間が通じますと、国道139号線の渋滞がかなり緩和されることが予想されます。

また、リニア実験線が通る大原地区と古川渡地区を結ぶ橋梁も事業の構想に入っていますので、今年完成する予定の大月市との間に架かる桂川大橋との連絡により、第二の国道バイパスとして大きな役割を果たすこととなります。

これら橋梁の建設により、市内の道路網が一段と整備・充実され、生活空間が広がることによって、住み良い住みたくなるまちづくりに、役買うことになるでしょう。